



2026年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年7月15日

上場会社名 株式会社 A B E J A 上場取引所 東
コード番号 5574 URL <https://www.abejainc.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役 C E O (氏名) 岡田 陽介
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 C F O (氏名) 英 一樹 TEL 03-6387-9222
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年8月期第3四半期の業績 (2025年9月1日～2026年5月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年8月期第3四半期	3,369	25.1	566	41.9	582	44.8	713	101.8
2025年8月期第3四半期	2,693	31.7	399	108.7	402	114.1	353	130.8

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年8月期第3四半期	71.91	68.41
2025年8月期第3四半期	37.54	34.14

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年8月期第3四半期	5,916	5,294	89.5
2025年8月期	5,318	4,471	84.0

(参考) 自己資本 2026年8月期第3四半期 5,293百万円 2025年8月期 4,469百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年8月期	—	0.00	—		
2026年8月期 (予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年8月期の業績予想 (2025年9月1日～2026年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,550	26.9	710	59.2	725	60.4	852	90.1	85.88

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2. 業績予想の修正については、本日 (2026年7月15日) 公表いたしました「繰延税金資産の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 6「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年8月期3Q	9,973,957株	2025年8月期	9,764,800株
② 期末自己株式数	2026年8月期3Q	115株	2025年8月期	115株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年8月期3Q	9,921,904株	2025年8月期3Q	9,418,636株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	6
(セグメント情報等の注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当社は「ゆたかな世界を、実装する」を企業理念に掲げ、顧客のAI活用を実運用として成立させ、継続的な高度化を実現するエンタープライズプラットフォーム事業を展開しております。中核であるABEJA Platformは、顧客の業務及び現場において、データ、意思決定及びオペレーションを一体的に扱い、リアル空間のオペレーションの高度化を支える実装基盤であります。

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、賃上げ、雇用環境の改善を背景に、国内景気は緩やかな回復の動きがみられます。一方で物価や資源価格の動向、金融資本市場の変動、国際情勢の影響等により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社を取り巻く事業環境では、ミッションクリティカル業務にAIを活用するうえで、汎用的なモデルを導入するだけでは十分でなく、企業固有のデータを業務プロセスや判断ルール等と結びつけ、安全かつ継続的に運用することが求められています。AIモデルが急速に進化する中、AIの価値創出の焦点は、個別モデルそのものから、進化するAIを現実の業務に実装し運用する基盤へと移りつつあります。また、現実世界を理解し行動を計画するフィジカルAIが次の成長領域として位置づけられ、意思決定を担うAIと実行を担うロボティクスを統合する動きが加速しております。

当第3四半期累計期間は、LLM関連需要の取り込みとABEJA Platformを通じたAI利活用の拡大により、売上高は前年同期比25.1%増、営業利益は同41.9%増となり、事業の拡大が継続しております。また、当第3四半期会計期間においては、「オペレーション領域」の売上が着実に伸長し、継続収入の積み上がりが進みました。

顧客の業務への実装は、より中核的かつ複雑な領域へと広がっております。金融分野では、株式会社栃木銀行と全行的なDX/AI領域における業務連携を開始いたしました。これは、金融特有の複雑かつ高度なガバナンスを要する業務プロセスに対し、ABEJA Platform上に、AIガバナンス、リスク管理及びHuman in the Loopを組み込んだアーキテクチャを構築し、継続的に高度化していくものです。業務データ、判断ルール、実行プロセス及びガバナンスを一体的に接続し、顧客のミッションクリティカル業務におけるAIの実運用と継続的な改善を実現する、当社が展開するプラットフォームビジネスの一例となります。また、AIの活用領域がリアル空間へと拡張するなか、当社はフィジカルAIを次の成長領域と位置づけ、ロボット基盤モデルの評価・検証等を通じて、デジタル空間における意思決定をリアル空間における実行へと接続する技術的な蓄積を着実に重ねております。

研究開発の面では、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が公募した「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業／競争力ある生成AI基盤モデルの開発（GENIAC）」の第三期事業が、2026年2月に終了いたしました。当社は第三期において、ロングコンテキスト対応の小型化LLM及びAIエージェントを構築し、特定業務タスクにおける運用可能性を検証いたしました。

また、当第3四半期会計期間末日後には、長年協業関係を築くNVIDIAのオープンモデル「NVIDIA Nemotron 3」をABEJA Platformに搭載するなど、自社開発と外部の最先端モデルの両面から、高度なAIエージェントの構築を推進しております。さらに、当社はGENIACの第四期にも採択され、第一期から四期連続での参画となりました。第四期では、中古車流通大手の株式会社IDOMと連携し、自動車整備領域に特化したAIエージェントの構築及び実運用の検証に取り組んでまいります。

この結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高3,369,006千円（前年同期比25.1%増）、営業利益566,828千円（前年同期比41.9%増）、経常利益582,099千円（前年同期比44.8%増）、四半期純利益713,507千円（前年同期比101.8%増）となりました。なお、当第3四半期会計期間末において、将来課税所得の見積り等を踏まえ繰延税金資産の回収可能性を見直した結果、法人税等△131,407千円を計上しており、四半期純利益の増加要因となっております。

当社はエンタープライズプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

なお、売上高については、「トランスフォーメーション領域」と「オペレーション領域」に分類しており、2025年8月期及び2026年8月期第3四半期累計期間の実績は次のとおりとなります。

（単位：千円）

領域の名称	2026年8月期 第3四半期累計期間（実績）		2025年8月期 （実績）	
		構成割合		構成割合
トランスフォーメーション領域	2,518,484	74.8%	2,746,630	76.6%
オペレーション領域	850,522	25.2%	838,779	23.4%
合計	3,369,006	100.0%	3,585,409	100.0%

トランスフォーメーション領域は、個別顧客のニーズに対応したABEJA Platformの導入支援とその周辺サービスを提供しており、仕組みづくり・構築フェーズに位置づけられます。なお、仕組みづくり・構築は段階的に進めていくため、多くの収入はフロー型（都度契約）となりますが、一方で長期間にわたる計画的なプロセスとなるため、継続顧客の割合は高くなっております。

- ・エンタープライズ企業の継続顧客からの売上比率（注）88.8%（2025年8月期）

（注）エンタープライズ企業の継続顧客からの売上比率は、既存顧客（前事業年度に売上が発生したエンタープライズ顧客）の当事業年度の売上高/エンタープライズ顧客の当事業年度の総売上高

オペレーション領域は、個別顧客のニーズに対応したABEJA Platform上で人とAIの協調による運用を行う運用フェーズに位置づけられます。このため、主な収入はストック型の継続収入となります。

（2）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第3四半期会計期間末の資産合計は、5,916,508千円となり、前事業年度末に比べ598,333千円増加いたしました。これは主に当第2四半期会計期間における投資有価証券の取得及び時価評価により投資有価証券が375,392千円増加したこと、将来課税所得の見積り等を踏まえ繰延税金資産の回収可能性を見直した結果、繰延税金資産が295,589千円増加したこと等によるものです。

（負債）

当第3四半期会計期間末の負債合計は、621,748千円となり、前事業年度末に比べ224,689千円減少いたしました。これは主に公的案件の売上計上により流動負債のその他に含まれる契約負債が147,862千円減少したことや、上期賞与の支給により賞与引当金が72,253千円減少したこと等によるものです。

（純資産）

当第3四半期会計期間末の純資産は、5,294,760千円となり、前事業年度末に比べ823,023千円増加いたしました。これは主に新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ37,628千円増加したこと及び四半期純利益の計上により利益剰余金が713,507千円増加したこと等によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、当第3四半期累計期間における業績動向を踏まえ、2026年4月14日の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました2026年8月期の通期業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日（2026年7月15日）公表の「繰延税金資産の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年8月31日)	当第3四半期会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,586,017	4,302,146
売掛金及び契約資産	463,070	532,098
仕掛品	12,992	30,371
貯蔵品	2,404	489
未収入金	1,104	82,874
その他	39,694	82,617
貸倒引当金	△738	△738
流動資産合計	5,104,545	5,029,860
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品	30,216	44,009
減価償却累計額	△13,344	△22,108
工具、器具及び備品（純額）	16,871	21,900
有形固定資産合計	16,871	21,900
無形固定資産		
ソフトウェア	14,490	11,498
無形固定資産合計	14,490	11,498
投資その他の資産		
投資有価証券	—	375,392
繰延税金資産	162,782	458,371
その他	19,484	19,484
投資その他の資産合計	182,266	853,248
固定資産合計	213,629	886,647
資産合計	5,318,174	5,916,508
負債の部		
流動負債		
買掛金	498	158
未払金	159,807	144,965
未払法人税等	74,069	158,604
賞与引当金	157,661	85,407
役員賞与引当金	51,479	15,540
その他	402,921	217,072
流動負債合計	846,438	621,748
負債合計	846,438	621,748
純資産の部		
株主資本		
資本金	895,936	933,564
資本剰余金	2,679,513	2,717,142
利益剰余金	894,213	1,607,721
自己株式	△272	△272
株主資本合計	4,469,391	5,258,156
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	—	34,953
評価・換算差額等合計	—	34,953
新株予約権	2,344	1,650
純資産合計	4,471,736	5,294,760
負債純資産合計	5,318,174	5,916,508

（2）四半期損益計算書
（第3四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期累計期間 （自 2024年9月1日 至 2025年5月31日）	当第3四半期累計期間 （自 2025年9月1日 至 2026年5月31日）
売上高	2,693,143	3,369,006
売上原価	1,007,318	1,346,363
売上総利益	1,685,824	2,022,642
販売費及び一般管理費	1,286,241	1,455,814
営業利益	399,582	566,828
営業外収益		
受取利息	1,439	4,665
受取配当金	—	9,238
受取手数料	1,257	1,297
その他	954	1,319
営業外収益合計	3,651	16,520
営業外費用		
支払利息	—	232
為替差損	580	384
株式交付費	429	632
その他	114	0
営業外費用合計	1,124	1,249
経常利益	402,110	582,099
税引前四半期純利益	402,110	582,099
法人税等	48,526	△131,407
四半期純利益	353,583	713,507

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間（自 2024年9月1日 至 2025年5月31日）

当社は、エンタープライズプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期累計期間（自 2025年9月1日 至 2026年5月31日）

当社は、エンタープライズプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期累計期間に係るセグメント情報については、フィジカルAIを含む取り組みの進展等を踏まえ、デジタル領域に限定されない当社の提供価値をより適切に表すため、当中間会計期間より、従来「デジタルプラットフォーム事業」としていた報告セグメントの名称を「エンタープライズプラットフォーム事業」に変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報についても、変更後の名称で記載しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年9月1日 至 2025年5月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年9月1日 至 2026年5月31日)
減価償却費	8,967千円	11,756千円